

# 淀川水系 神崎川下流ブロックの流域の概要

## 神崎川、中島川、左門殿川、西島川

平成 20 年 10 月

### 大 阪 府

\*\*\*\*\*

### 目 次

<b>1. 流域の概要</b>		<b>2.4 河川特性</b>	
1.1 神崎川下流ブロックの構成（神崎川、中島川、左門殿川、西島川）-----	1	(1) 河川区間 -----	24
1.2 神崎川下流ブロック流域市の概要-----	2	(2) 河川景観 -----	24
<b>2. 流域の特性</b>		(3) 水環境 -----	25
<b>2.1 自然環境特性</b> -----	3	水質 -----	25
(1) 地形・地質-----	3	下水道整備 -----	25
(2) 気候-----	7	<b>2.5 水利用と空間利用</b>	
(3) 動植物-----	8	(1) 既得用水の状況 -----	28
<b>2.2 社会環境特性</b>		(2) 河川空間利用 -----	28
(1) 人口-----	11	<b>3 水害の状況</b>	
(2) 土地利用-----	12	<b>3.1 過去の被害状況</b> -----	30
(3) 産業-----	14	<b>3.2 主要洪水の概要</b> -----	32
(4) 公共・レクリエーション施設-----	17	<b>4 地震被害</b> -----	33
(5) 交通-----	19	<b>5 河川の整備状況</b>	
<b>2.3 流域の歴史</b>		(1) 河川改修の歴史 -----	35
(1) 歴史・文化財-----	21	(2) 河道の変遷 -----	35
(2) 行事・イベント-----	23	(3) 河川改修事業 -----	37
		<b>6 流域の将来像</b>	
		<b>6.1 まちづくりに関連する主な計画</b> -----	43
		<b>6.2 神崎川ネオ・リバープラン</b> -----	44
		<b>6.3 住民意識等と現状の河川整備等に関する課題</b> -----	45

# 1 流域の概要

## 1.1 神崎川下流ブロックの構成（神崎川、中島川、左門殿川、西島川）

神崎川下流ブロックは、神崎川が猪名川と合流する、河口から約 6.9km 上流の地点から、左門殿川、中島川、西島川を分派して大阪湾に注ぐ区間と分派した 3 河川の区間の範囲です。神崎川の流域面積は、猪名川と合流した地点で 591.1km<sup>2</sup> となり、神崎川下流ブロック流域の面積は大野下水道排水区域を含む内水域に属しています。

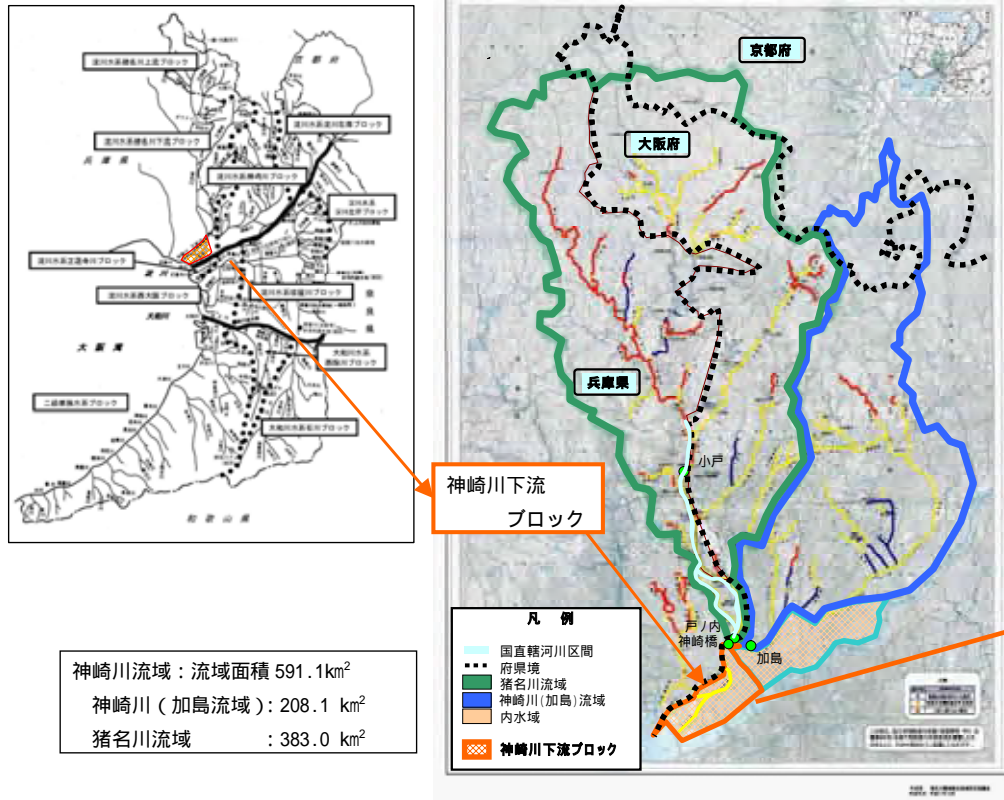


表-1.1.1 対象河川諸元

河川名	河川区間の始点・終点	延長 (km)	備考
神崎川	起点) 大阪湾	18.59	: 神崎川下流ブロックにおける延長を示す。
	終点) 淀川からの分派点( 摂津市一津屋 ) ( 猪名川への合流点 )		
中島川	起点) 大阪湾 終点) 神崎川からの分派点	2.82	
左門殿川	起点) 中島川への合流点 終点) 神崎川からの分派点	2.57	
西島川	起点) 淀川への合流点 終点) 神崎川からの分派点	1.49	

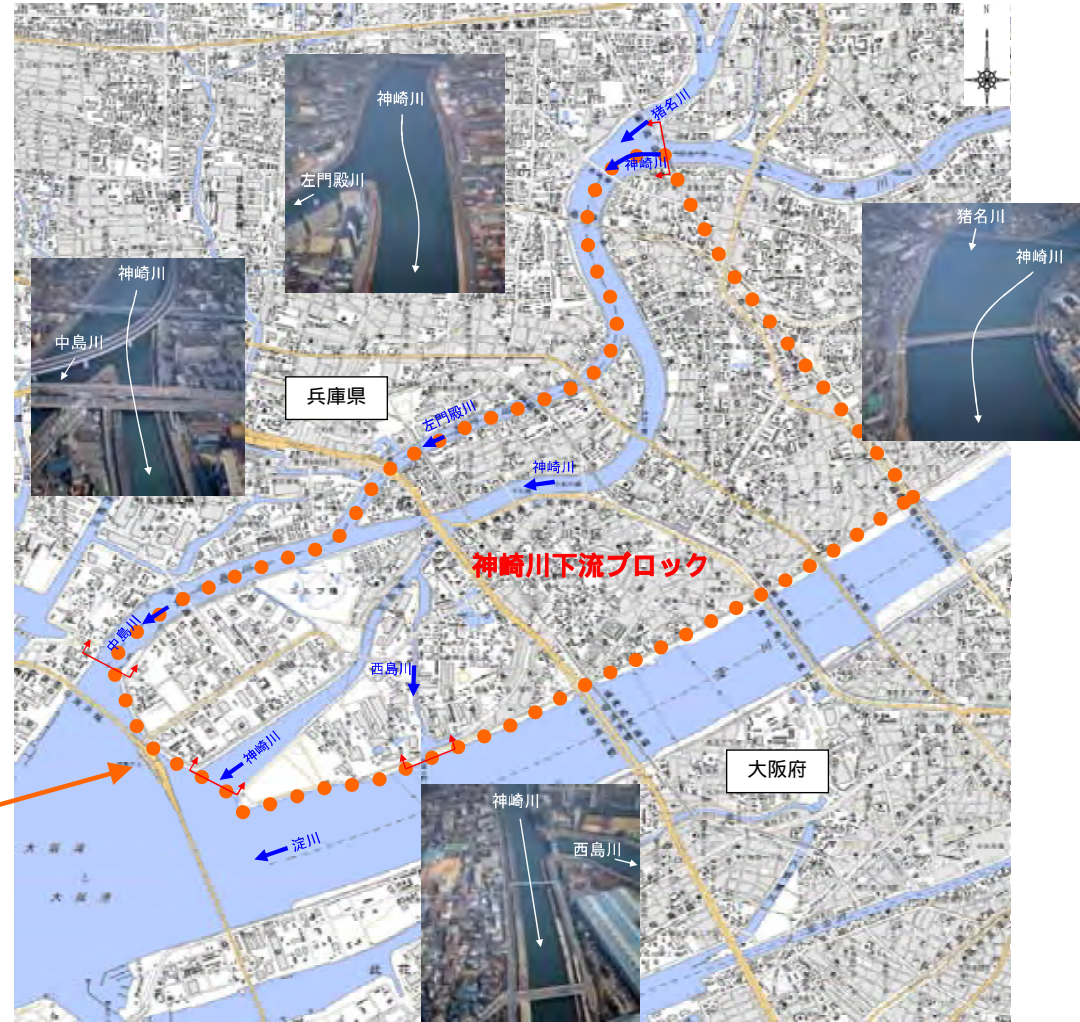


図-1.1.1 神崎川下流ブロック流域位置図

## 1.2 神崎川下流ブロック流域市の概要

神崎川下流ブロックに関連する大阪府の自治体は、大阪市西淀川区と淀川区で、大部分を西淀川区が占めています。西淀川区は、古代～現在にかけて環境が大きく変化してきました。

古代には、河川の堆積土砂により形成された土地であることから、舟運が盛んでした。

江戸～明治時代後半には、水辺の地域であることから、農・漁村として発展しました。

明治後半～昭和40年代半ばには、工業地帯としての発展する一方、公害という負の遺産を背負いました。

そして、昭和40年代半ば～現在にかけて、様々な取組みにより公害から再生し、良質な住環境が形成された住宅の街へと変化しつつあります。

### 古代

古代には、上町台地の北側から生駒山地の麓まで海(河内湾)を形成していましたが、紀元前2～3世紀頃から河内湾・大阪湾に注ぐ河川が運ぶ土砂の堆積等により河内湾の陸化が始まり、上町台地の西に三角州や多数の島々を次第に形成し、辺り一帯は「難波の八十島」と呼ばれました。当地域は、これらの島々を始まりとしています。現在、竹島・御幣島・歌島・佃(島)・出来島・中島・西島など、「島」のつく地名が多いのは、その名残です。

西暦785年に淀川と三国川(現神崎川)との間が開削され、三国川河口の神崎から遊行し淀川へ入る舟運が盛んとなり、その流路に沿う当地域も、次第に開けていくこととなりました。

### 江戸～明治時代後半・・・農・漁村としての発展

江戸時代、水運に恵まれた当地は、農・漁村として発展し、幕末までに多くの新田が形成されました。当時の新田開発は、埋立開拓により行われ、現西淀川区域を含む西成郡で盛んに進められました。

しかし、もともと大部分が低湿地帯である西成郡における新田開発は、淀川の度重なる洪水の被害に加え、その滞留水(悪水)がなかなか排けられないなど課題を抱えていました。そのため、延宝6(1678)年に、西淀川区域を縦断し悪水を直接海に導く排水路である中島大水道が建設されました。中島大水道は昭和初期まで利用され、現在では、大野川緑陰道路として区民に親しまれています。

### 明治後半～昭和40年代半ば・・・工業地帯としての発展

西淀川区域では、河川沿岸への工場の進出や、阪神電鉄沿線で住宅の増加が見られたものの、明治の終わりごろまでは依然美しい田園地帯が広がり、江戸時代に引き続き農業・漁業が主な産業となっていました。しかし、明治20年頃から紡績、食品、化学などの工場が次々と操業を開始し、目清戦争、日露戦争、第一次世界大戦による軍需産業の隆盛が追い風となり、さらに工場進出が激化していきました。こうして、大正・昭和のはじめにかけて急速に工業が成長し、農業・漁業は次第に衰退していくこととなりました。

阪神工業地帯の中核として工業が発展した当区域においては、時代とともに工場集積が増加し、公害問題も悪化することとなりました。昭和30・40年代にはピークに達し、亜硫酸ガスによる大気汚染で、慢性気管支炎を患う人が多数にのぼりました。当区域の公害は大気汚染に限ったものではなく、工場の過度の地下水くみ上げによる地盤沈下や、河川の汚染をはじめ、様々な面で住環境を脅かしました。

### 昭和40年代半ば～現在・・・公害からの再生

西淀川区は、昭和44年「公害に係る健康被害の救済に関する特別処置法」に基づく地域指定を受けましたが、同46年の公害認定患者が2,000人を超え、同49年8月に交付された「公害健康被害補償法施行令」第一号として指定を受けました。

こうした問題に対して、昭和37年には「煤煙の排出の規制に関する法律」が制定され、同40年から大阪市で汚染状況の常時測定が開始されました。そして同48年に、「クリーンエアプラン73」が策定され、大阪市における公害に対する本格的な取り組みが始まり、当区においても「公害の町」からの脱却の道が開かれていきました。

なかでも、中島大水道、大野川は、戦後、農地の宅地化と工場の増加、台風水害による破損などにより、しだいに「どぶ川化」して悪臭を放ち、周辺環境を悪化させていましたが、大阪市により緑道として整備され、全国の住環境整備事業のモデルとなる大野川緑陰道路が完成(昭和54年)しました。

昭和40年代以降の西淀川区は、工業の発展とそれによる公害に悩まされた人々の生活がクローズアップされてきた地区でした。しかし近年、公害に対する住民と行政の取り組みが蓄積され、徐々に良質な住環境が形成されつつあります。また、平成9年には、JR東西線が開通し、交通利便が飛躍的に向上しています。現在、駅近傍の工場跡地にはマンションが建ち、工場の街から住宅の街へと変化しつつあります。

出典：西淀川区まちづくりレポート(平成13年3月)西淀川区役所(一部改編)



図-1.2.1 明治40年頃の河岸風景

出典：「西淀川今昔写真集」(西淀川区政70周年記念)西淀川区制70周年記念事業実行委員会



図-1.2.2 悪水路と化した大野川(昭和45年)

出典：「西淀川今昔写真集」(西淀川区政70周年記念)西淀川区制70周年記念事業実行委員会



図-1.2.3 大野川の埋立によりできた大野川緑陰道路(平成20年現在)

## 2 流域の特性

### 2.1 自然環境特性

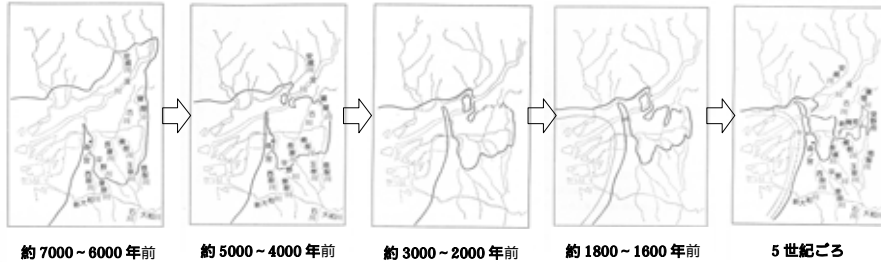
#### (1) 地形・地質

神崎川下流ブロックの地形は、近世中期頃に概ね形成されたもので、南から延びる洪積台地（上町台地）によって二分された大阪平野西側低地に位置する、淀川等が形成したデルタ地帯です。地形分類では三角州性低地に属しています。

神崎川下流ブロックの地質は、第三紀鮮新世末から第四紀更新世中期の大阪層群、更新世中期以降の地殻変動と気候変動が活発な時期に形成された上部洪積層と沖積層が重なっており、大阪湾では、数百～数千 m 程度堆積しています。表層地質は泥に分類されています。

神崎川下流ブロックを含む大阪市内では、昭和 10 年代～昭和 30 年代半ばに、産業活動に伴い地下水の過剰採取が行われ、臨海部の工業地域で地盤沈下が拡大しました。昭和 30 年代後半以降、地下水採取規制等の対策の推進により、沈下の進行は鈍化し、近年では沈静化の傾向にあります。

なお、海岸部一帯は、古くからの埋立地であり、慶長の末（17 世紀初期）から新田開発が始められ、次々に沖堤が築きあげられ、明治に入るまで行われました。明治 30 年以降は、現在に至るまで海面の埋め立てが行われています。そうした中、淀川と神崎川河口にはさまれた「矢倉緑地」は、大阪市内で唯一残された自然海岸を整備し平成 12 年 9 月にオープンした都市公園で、地域住民の憩いの場となっています。



近世中期の河川状況

出典：大阪の川 - 都市河川の変遷 -  
大阪市建設局監修



図-2.1.1 沖積層堆積分布図

出典：大阪地盤沈下対策誌 昭和 47 年 10 月  
大阪地盤沈下総合対策協議会

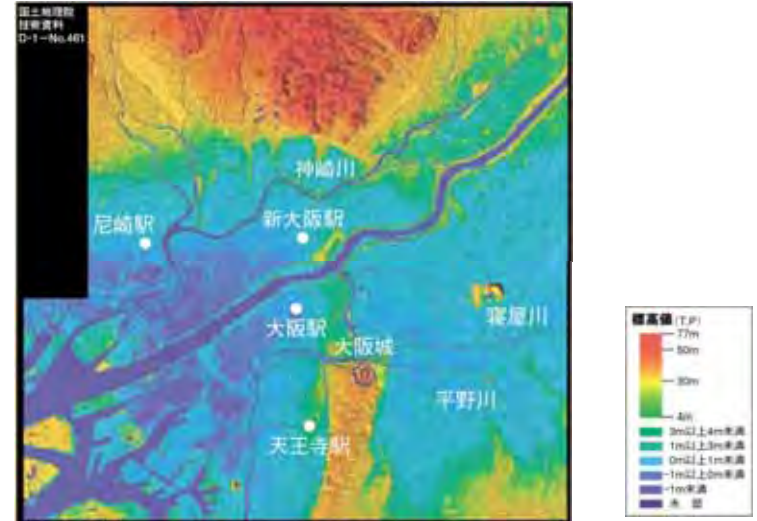


図-2.1.2 近畿地方の標高

出典：国土交通白書 H19 年度版より、(資料) 国土交通省国土地理院

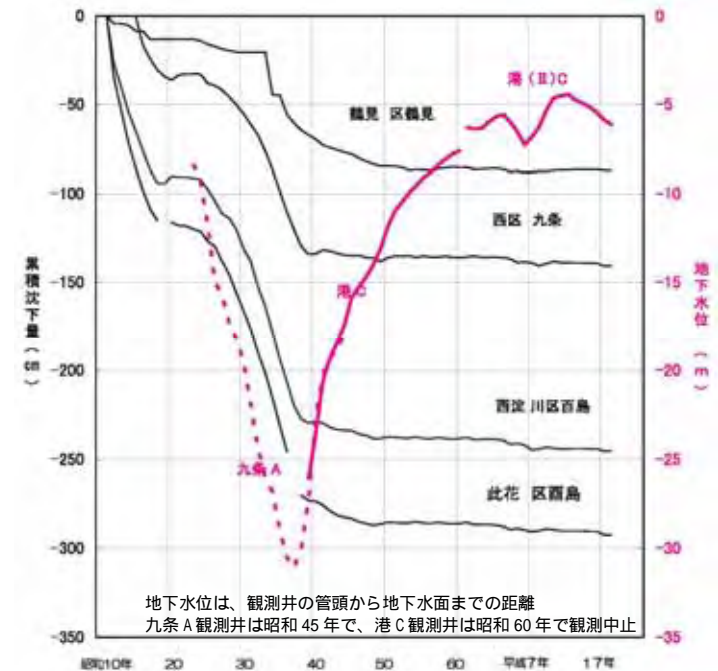


図-2.1.3 大阪市内における地盤累積沈下量

出典：平成 19 年版 (2007 年) 大阪市環境白書

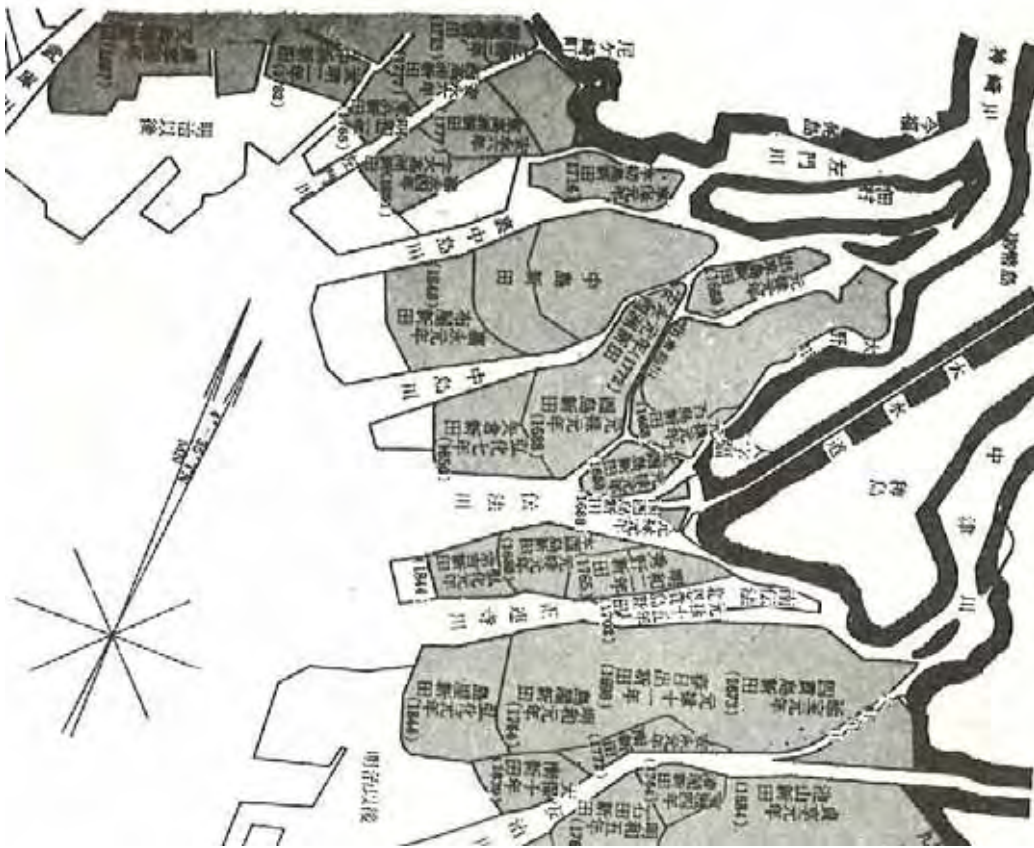


図-2.1.4 大阪周辺埋立地

出典：大阪地盤沈下対策誌 昭和47年10月 大阪地盤沈下総合対策協議会



図-2.1.5 矢倉緑地（神崎川上流を望む）



図-2.1.6 地形分類図

出典：土地分類図（大阪府）昭和51年、日本地図センター、平成13年第2刷

## 凡例 Legend

### Hillylands, Uplands and Terraces

**大起伏丘陵地** Larger relief hill lands  
起伏量100~200mの丘陵地で、北摂山地内陸盆地にみられる花崗地帯を主とするものと高嶺丘陵や高北丘陵にみられるものより山地や山麓地に伴し、大阪府下全域よりなるものがある。

**小起伏丘陵地** Smaller relief hill lands  
起伏量100m以下の丘陵地で、府下の大部分の丘陵がこれにあたる。千早丘陵、富田丘陵、泉北、豊南丘陵などでは広大な面積を占めている。

**段丘(高位)** Upper terrace  
府下の段丘については、高・中・低位の3つに分類されている。高位は埋立山台地や丘陵部に点在してみとめられる。中位段丘については上町台地が、低位段丘については丹波川の沖積段丘が模式となっている。しかし、各段丘についての識別には、やや問題があり、今回は中・低位の段丘を一括して取り扱い、あえて分けなかった。大和川以南の泉北・豊南台地では広く段丘が展開している。

### 低地

**扇状地性低地** Fan  
扇状地性低地として典型的なものは旧大和川扇状地、柏原を中心として同心円的な扇形がみられる。他は河川の氾濫原というべきものが大部分である。

**三角洲性低地** Delta  
大阪湾に面する西大阪平野に最も広くみられる。東大阪平野もこれに属するが、旧大和川の河川の流入により自然堤防が発達し、不規則な分布をする。

**自然堤防・砂洲** Natural levee and sand dune  
東大阪平野では、旧大和川およびその支流がみられ、自然堤防が河川に沿って発達している。また、その一部は天井川を形成している。一方、上町台地の西部では砂洲が連続して発達し、牧田付近でも淀川の砂洲の一部としてかなり広い面積を占めている。

### 副分類

**埋立地** Artificially filled area  
埋立地は、堂川河口付近、木津川付近に見られるが、これらは江戸時代から徐々に埋立てられ、明治時代までにつづいている。一方堺・高津では、戦後、府の埋立事業によって実施されたので、その面積は大きく、堺、泉佐野工業地帯を形成している。また、岸和田や高住野のような南紀でも埋立地が分布している。  
M18-22陸軍測量本部測量成果（換算）2万による）を埋立たもの

府界 Boundary of prefecture

主要分水界 Main divide

山地の緩斜面 Gentle slopes on mountains

構造性急斜面 Tectonic steep slope

T, P, O = 以下 (大阪電管以下関西電力協議会S46による)  
Contour line of sea level

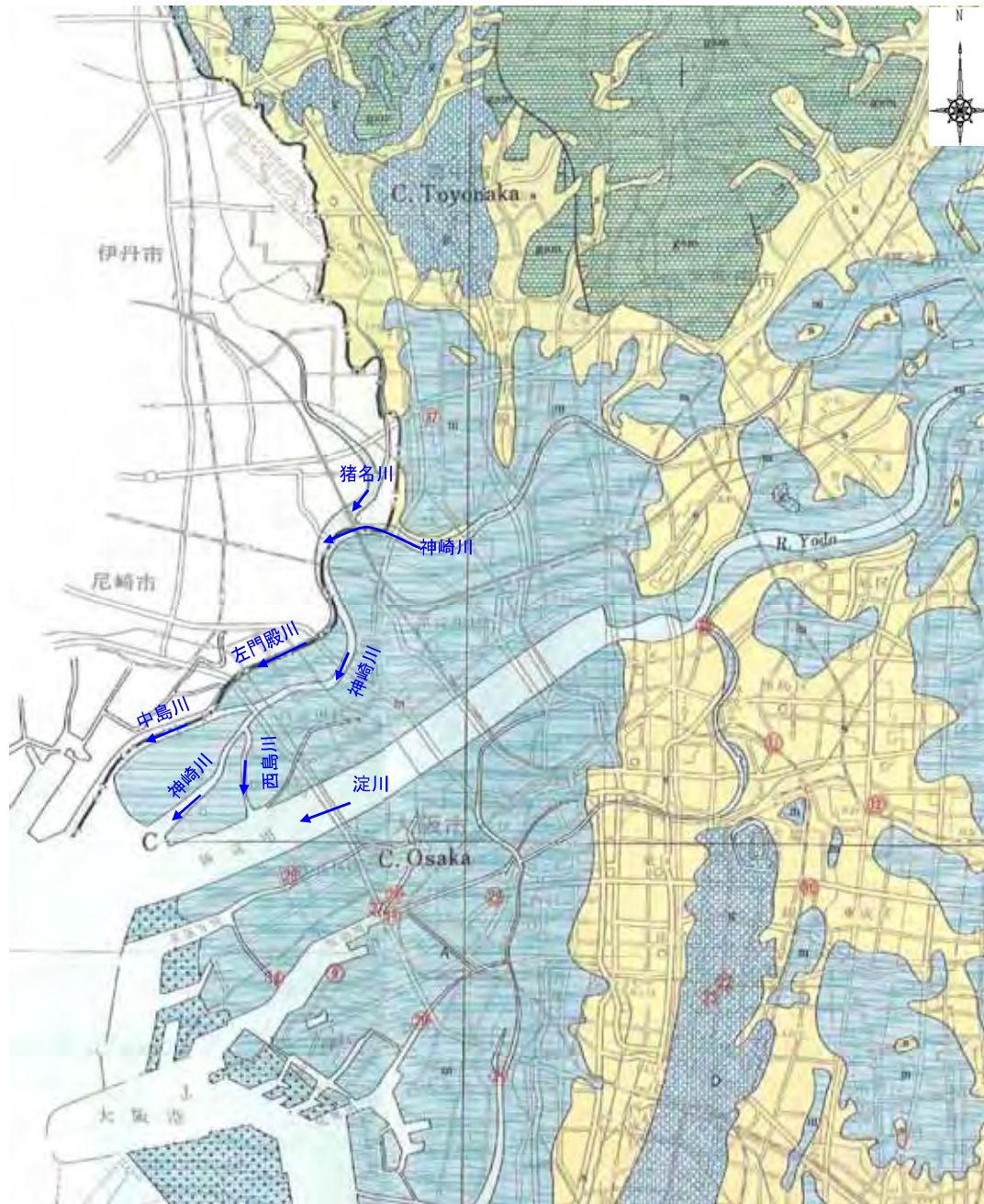
地すべり防止区域 (建設省)  
Landslide

地すべり防止区域 (農林省)  
Landslide

人工改変地  
Artificially deformed area

### 地形地域区分

A. 山地	A-I, 北摂山地	A-Ia, 北摂山地 A-Ib, 龍野山麓盆地群	
	A-II, 生駒、金剛山地	A-IIa, 生駒山地 A-IIb, 生駒西麓地 A-IIc, 生駒盆地 A-IId, 大和川河谷 A-IIe, 上山山地 A-IIf, 葛城山地 A-IIg, 金剛山地	
		A-III, 和泉山地	
B. 丘陵地	B-I, 北大阪丘陵地	B-Ia, 千早丘陵 B-Ib, 高槻丘陵 B-Ic, 箕面丘陵	
	B-II, 牧方丘陵地	B-IIa, 牧方丘陵 B-IIb, 長尾丘陵	
	B-III, 南大阪丘陵地	B-IIIa, 富田丘陵 B-IIIb, 河内長野丘陵 B-IIIc, 河内丘陵 B-IIId, 岷山山地 B-IIIf, 石川低地 B-IIIf, 高槻台地	
		B-IV, 泉北丘陵地	
		B-V, 泉南丘陵地	B-Va, 豊南丘陵 B-Vb, 神於山山地
C. 台地	C-I, 上町台地		
	C-II, 信太山台地		
	C-III, 泉南台地		
D. 平野	D-I, 大阪平野	D-Ia, 西大阪平野 D-Ib, 東大阪平野 D-Ic, 淀川低地 D-Id, 猪名川低地 D-Ie, 堺・泉北臨海平野 D-If, 旧大和川扇状地	



未固結堆積物  
Unconsolidated sediments

## 凡例 Legend



礫  
Gravel



砂  
Sand



泥  
Mud



泥、砂、礫互層  
Mud, sand and gravel alternation

段五層層からなる。大阪府南端、北摂山麓、生駒丘陵に分布する。分布高度により、高位段五層層と中・低位段五層層に分けられる。高位段五層層は厚さ5-10mで赤褐色の腐化層から成る。分布は枚方山、千早丘陵北部、枚方市東部などに限られている。中位と低位の段五層層の区分はなお明確がされていないが、いずれも広い谷地を作る。厚さ10m前後の中一六層層で、中部に砂層やシルト層を挟む場合もある。この層層は平野の地下にも分布しており、大阪市街地では天流層と呼ばれる支持層を作るものと見られる。(更新統後期)

沖積砂層からなる。主に平野に分布しており、沖積粘土層を覆う。自然堤防、扇状地など形成地を作る。また、丘陵地や山間の谷間平野にも分布する。地盤としては下位の粘土層の分布に注意を要する。なお、垂直方向断面では支持層の深さ15m以上の部分は泥層を主とする地域に多い。(沖積統)

主に沖積粘土層からなる。近大阪、淀川沿沖及び東大阪の平野部に広く分布する。大阪市街地では検田層と呼ばれる海成粘土層で、厚さ20-30mに達するN値0-3部の軟弱層である。東大阪にも厚さ30m以上に達する軟弱層の分布が知られている。地盤沈下、地震災害等、頻回の多い地盤を作る。(沖積統)

丘陵地に分布する。大阪層群と呼ばれる地層で、泥、砂、礫の詳細な区分が行われているが、本図では概々の関係で、一括した。砂礫層は良好な地盤を作る。泥層も厚さ15-20m以上で、よく締っている。しかし、横断面に沿って急傾斜したり、破砕を受けており、粘土層の分布地では地スベリに注意が必要である。海成粘土層も含まれており、風化すると強酸性粘土となる。なお、垂直的分層図では海成粘土を抜き、比較の粘土層の卓越する丘陵地を区分した。(更新統前期)

## 付加記号 Additional symbol



埋立地 Artificially filled area



走向傾斜 Strike and dip



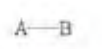
背斜軸 Axis of anticline



向斜軸 Axis of syncline



断層 Fault



断面線 Locality of section line



鉱泉 Mineral spring



1-13 深層ボーリングの位置および番号  
Locality and number of bore hole (Deep)



1-40 浅層ボーリングの位置および番号  
Locality and number of bore hole (Shallow)

図-2.1.7 表層地質図

出典：土地分類図(大阪府)昭和51年、日本地図センター、平成13年第2刷

(2) 気候

神崎川下流ブロックの気候は、四季を通して温和で降水量が少ない瀬戸内気候区に属しています。  
 大阪管区気象台(大阪)の昭和53年～平成19年の30ヶ年間の観測結果によると、年平均気温は16.8、  
 年間平均降水量は1,283.9mmとなっています。

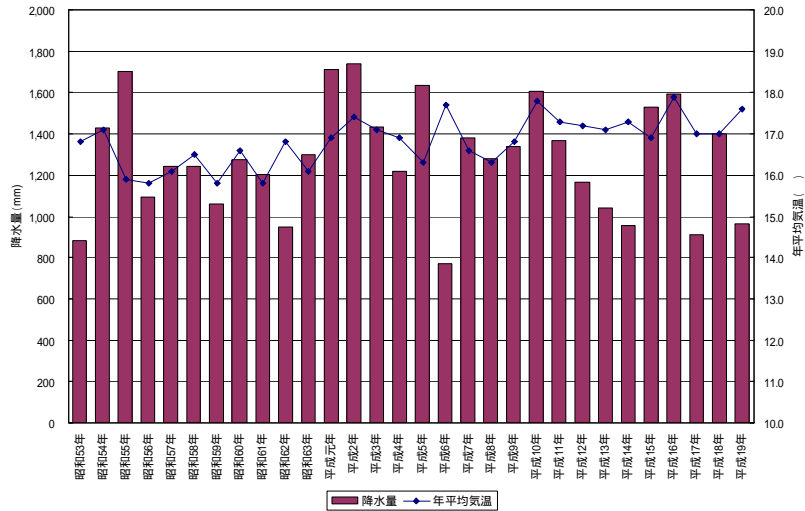


図-2.1.8 大阪管区気象台の年降水量と年平均気温 (昭和53年～平成19年)  
 (データ：大阪管区気象台)

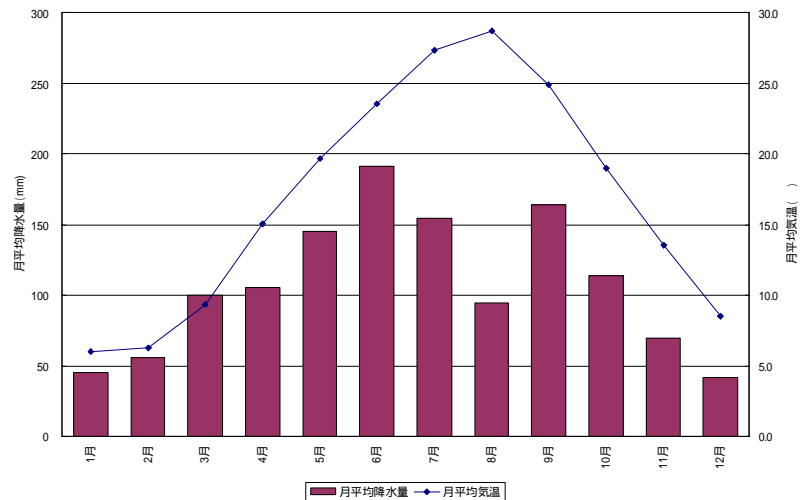


図-2.1.9 大阪管区気象台の月平均降水量と月平均気温 (昭和53年～平成19年)  
 (データ：大阪管区気象台)

昭和53年～平成19年の5ヶ年毎の平均気温・降水量観測結果によると、気温は上昇傾向にあり、降水量は1,200～1,400mm程度で推移しています。

また、近年、大阪府内の雨量観測所における集中豪雨が観測された数が増加傾向にあります。  
 昭和40年～昭和63年(24年間)の時間雨量50mm以上の発生回数は21回。  
 平成元年～平成18年(18年間)の時間雨量50mm以上の発生回数は43回。  
 特に近年は、ほぼ毎年、時間雨量70mm以上の降雨が発生し、その回数も増大しています。

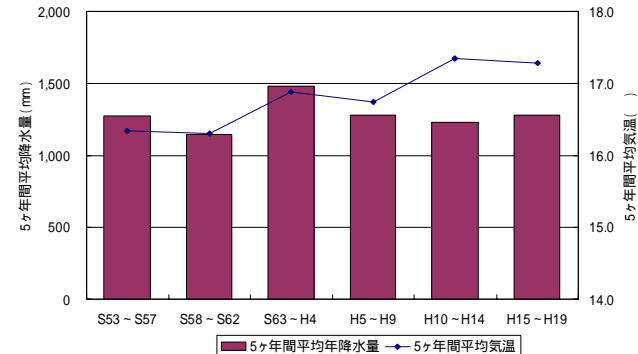
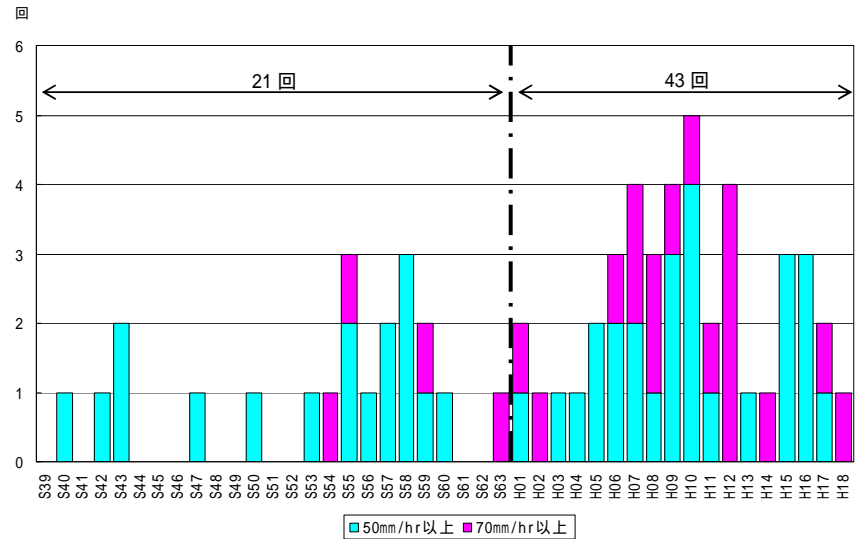


図-2.1.10 昭和53年～平成19年の5ヶ年毎の平均気温・降水量 (データ：大阪管区気象台)



備考) 大阪府内全域の雨量観測所における降雨。

前後1日に複数の観測所で観測された場合でも、1つの降雨としてカウント。

雨量観測所は、昭和39年当時が25箇所程度であったのに対し、現在では40箇所程度。

図-2.1.11 昭和39年から平成18年にかけての50mm/hr以上の降雨回数 (データ：大阪府)



(3) 動植物

現状では、神崎川下流ブロック周辺（主に、大阪市西淀川区）においては、都市化が進んでおり、動植物の生息域は限定されています。  
西淀川区では、公害から再生した経緯から環境に関する関心が高く、地域住民等による動植物の調査も実施されています。

植物

現存植生図より見れば、中島川左岸の一部に牧草地（ゴルフ場）が広がるのみで、一般住宅地と工場地帯からなり、貴重な植生はほとんど見られないのが現状です。

一部、「矢倉緑地」や「大野せせらぎの里」などの大規模公園整備や、「大野川緑陰道路」の散策路整備などにより、街に緑を増やす取り組みが行われています。



図-2.1.12 現存植生図

出典：第6回・第7回自然環境保全基礎調査 植生調査 近畿ブロック  
2次メッシュ：大阪西北部（2001年度調査）

魚類

神崎川河口～猪名川合流点までの区間は汽水域であり、平成4年、9年の調査で、「ボラ」と「スズキ」が確認されています。

なお、猪名川合流点より上流区間の神崎川等では、既往調査により、「アユ」が確認されています。



ボラ



スズキ

表-2.1.1 生物確認リスト（魚類）

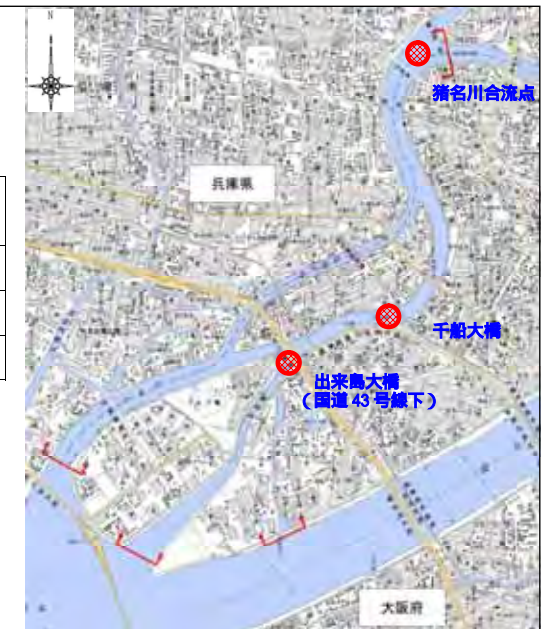
分 類				河川名	神崎川 河口 ～ 猪名川合流点		大阪 RDB	レッド リスト
目名	科名	種名	学名	資料番号	一級河川茨木川外 多自然型護岸検討 委託報告書、大阪 府、H5.3	一級河川神崎川外 多自然型護岸検討 委託報告書、大阪 府、H10.3		
ボラ	ボラ	ボラ	<i>Mugil cephalus cephalus</i>					
スズキ	スズキ	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>					
資料別出現種数				調査年度	H4	H9	H12.3	H19.3
				目 数		1	2	
河川別出現種数				科 数		1	2	
				種 数		1	2	
				目 数			2	
				科 数			2	
				種 数			2	

\*大阪RDB：「大阪府レッドデータブック」H12.3発行、レッドリスト：「環境省レッドリスト」H19.3公表

調査箇所における観測個体数

	出来島 大橋	国道43 号線下	千船 大橋	猪名川 合流点
種名	H9	H4	H9	H9
ボラ	1個体	1個体	1個体	1個体
スズキ				1個体

図-2.1.13 調査箇所位置図（魚類）



底生生物

平成4年、9年度の調査によれば、カワヒバリガイ、モクスガニ、テナガエビが確認される他、フジツボ科の一種、イガイ科の一種、ゴカイ科の一種、ミミズ類が確認されています。

また、平成20年の「西淀自然文化協会」による矢倉海岸の調査では、平成14年に確認されたハクセンシオマネキ(レッドリスト:絶滅危惧 類)の他、ウネナシトマガイ(レッドリスト:準絶滅危惧)やマトシジミ(レッドリスト:準絶滅危惧)イシマキガイ(大阪府レッドデータブック:要注目)が確認されています。

表-2.1.2 生物確認リスト(底生生物)

目名	科名	種名	学名	資料名	河川名 神崎川 河口 ~ 猪名川合流点			大阪 RDB	レッド リスト
					調査年度	H4	H9		
ガイ	ガイ	カハバガイ	Limnoperna fortunei						
		イガイ科の一種	Mytilidae gen. sp.						
		カハバガイ亜科の一種	Modiolinae gen. sp.						
マダラガイ	マダラガイ	マダラガイ	Trapezium liratum						準絶滅危惧
		シジミ	Corbicula japonica						準絶滅危惧
オサハコガイ	オサハコガイ	オサハコガイ	Clithon retropictus						要注目
		ゴカイ	Nereididae gen. sp.						
(ミミズ類)	(ミミズ類)	(ミミズ類)	Oligochaeta						
フナ	フナ	フナ科の一種	Balanidae gen. sp.						
ヒ	ヒ	ヒ	Macrobrychium nipponense						
イカニ	イカニ	イカニ	Eriocheir japonicus						
カニ	カニ	カニ	Fiddler crab						絶滅危惧 類
資料別出現種数				目数	4	5	3		
				科数	4	6	4		
				種類数	4	7	4		
河川別出現種数				目数	8				
				科数	10				
				種類数	12				

「西淀自然文化協会」データは西淀自然文化協会提供資料による

哺乳類、両生類・爬虫類

動植物調査を神崎川において平成4年、9年度に実施していますが、神崎川河口~猪名川合流点までの区間については哺乳類、両生類・爬虫類等の項目は調査対象外としています。

平成16~20年の「西淀自然文化協会」による矢倉海岸の調査では、哺乳類ではアブラコウモリ、爬虫類ではアオダイショウ、カナヘビ、トカゲなどの5種が確認されています。

表-2.1.3 生物確認リスト(哺乳類・爬虫類他)

綱名	目名	種名	学名	河川名	神崎川(矢倉海岸)	大阪 RDB	レッド リスト
				資料名	西淀自然文化協会調査		
				調査年度	H16~H20	H12.3	H19.3
哺乳綱	コウモリ目	アブラコウモリ	Pipistrellus abramus				
爬虫綱	有鱗目	アマガシ	Eumeces latiscutatus				
		トカゲ	Agkistrodon blomhoffii				
		マムシ	Rhabdophis tigrinus				
		ヤマカガシ	Agelena limbata				
クモ綱	クモ目	シジミ	Atypus karschi				
		ナガコガシ	Argiope bruennichii				
甲殻綱	ワサシ目	オサハコガイ	Armadillidium vulgare				
出現種数				目数	4		
				科数	4		
				種類数	4		

「西淀自然文化協会」データはホームページ及び提供資料(H20.6調査)による

鳥類

平成13年度の調査では、コアジサシ(大阪府レッドデータブックおよびレッドリスト:絶滅危惧 類)やカワウ(大阪府レッドデータブック:要注目)の他、アオサギ、マガモ、ムクドリが確認されています。

また、平成18年の『日本野鳥の会』による矢倉海岸の調査では、コアジサシの他、コチドリやシロチドリ(ともに大阪府レッドデータブック:絶滅危惧 類)などをはじめオオタカ、ササゴイやシギ科の貴重種、「ダイサギ」、「コサギ」、「カルガモ」などが確認されています。

表-2.1.4 生物確認リスト(鳥類)

目名	科名	種名	学名	資料名	河川名	神崎川 河口 ~ 猪名川合流点	大阪RDB	レッド リスト	
					調査年度	H13			H18-H19
カワウ	カワウ	カワウ	Podiceps cristatus						
カ	カ	カ	Podiceps nigricollis					要注目	
カ	カ	カ	Phalacrocorax carbo					要注目	
		カ	Pandion haliaetus					準絶滅危惧	
		カ	Milvus migrans						
		カ	Accipiter gentilis					絶滅危惧I類	
コチドリ	コチドリ	コチドリ	Falco peregrinus Tunstall					要注目	
コチドリ	コチドリ	コチドリ	Puffinus tenuirostris					絶滅危惧I類	
コチドリ	コチドリ	コチドリ	Butorides striatus					準絶滅危惧	
		コチドリ	Egretta alba						
		コチドリ	Egretta garzetta						
		コチドリ	Egretta euophora					準絶滅危惧	
		コチドリ	Ardea cinerea						
カ	カ	カ	Anas platyrhynchos						
		カ	Anas poecilorhyncha						
		カ	Anas crecca						
		カ	Anas strepera						
		カ	Anas penelope						
		カ	Anas acuta						
		カ	Aythya ferina						
		カ	Aythya fuligula						
		カ	Aythya marila						
		カ	Common goldeneye						
カ	カ	カ	Mergus serrator						
		カ	Actitis hypoleucos					準絶滅危惧	
		カ	Xenus cinereus					準絶滅危惧	
		カ	Numenius phaeopus					準絶滅危惧	
		カ	Arenaria interpres					準絶滅危惧	
		カ	Calidris ruficollis					準絶滅危惧	
		カ	Tringa nebularia					準絶滅危惧	
		カ	Heteroscelus brevipes					準絶滅危惧	
		カ	Calidris alpina					準絶滅危惧	
		カ	Calidris ferruginea					準絶滅危惧	
カ	カ	カ	Charadrius dubius Scopoli					絶滅危惧I類	
		カ	Charadrius alexandrinus Linnaeus					絶滅危惧I類	
		カ	Charadrius mongolus Pallas						
		カ	Pluvialis squatarola						
カ	カ	カ	Larus ridibundus					絶滅危惧I類	
		カ	Sterna albifrons Pallas					絶滅危惧I類	
		カ	Larus argentatus						
		カ	Larus caninus						
カ	カ	カ	Larus crassirostris						
		カ	Streptopelia orientalis						
		カ	Hirundo rustica						
		カ	Motacilla alba						
		カ	Motacilla alba						
		カ	Motacilla grandis						
		カ	Alauda arvensis						
		カ	Hypsipetes amaurotis						
		カ	Lanius bucephalus						
		カ	Ficedula nubicissima					準絶滅危惧	
カ	カ	カ	Erythacus celliopo						
		カ	Phoenicurus aureus						
		カ	Saxicola torquata						
		カ	Monticola solitarius						
		カ	Tarsiger cyanurus						
		カ	Turdus naumanni						
		カ	Cettia diphona						
		カ	Phylloscopus coronatus					準絶滅危惧	
		カ	Cisticola juncidis					準絶滅危惧	
		カ	Acrocephalus arundinaceus					準絶滅危惧	
カ	カ	カ	Parus major						
		カ	Zosterops japonicus						
		カ	Emberiza cioides						
		カ	Emberiza spodocephala						
カ	カ	カ	Carduelis sinica						
		カ	Passer montanus						
カ	カ	カ	Sturnus cineraceus						
		カ	Corvus corone						
カ	カ	カ	Corvus macrorhynchos						
		カ	Corvus macrorhynchos						
資料別出現種数				目数	5	9			
				科数	6	26			
				種類数	7	71			
河川別出現種数				目数	9				
				科数	26				
				種類数	71				

「日本の野鳥の会」データはホームページによる

昆虫

神崎川における動植物調査（平成4年度、9年度）においては神崎川河口～猪名川合流点までの区間は昆虫の調査対象外としています。

そこで、環境省自然環境保全基礎調査（第3回（昭和59年度）及び第4回（平成元～3年度）動植物分布調査結果による環境省自然多様性生物センター情報公開の「地域の自然を調べる」（西淀川区）によると、以下の昆虫が確認されています。

表-2.1.5 生物確認リスト（昆虫類-1）

目名	科名	和名	学名	大阪RDB H12.3	レッドリスト H19.3
トンボ目	トンボ科	シオカラトンボ	<i>Orthemum albistylum speciosum</i>		
チョウ目	ウラギンシジミチョウ科	ウラギンシジミ	<i>Curetis acuta paracuta</i>		
チョウ目	シロチョウ科	キチヨウ	<i>Eurema hecabe hecabe</i>		
チョウ目	シロチョウ科	モンシロチョウ	<i>Pieris(Artogeia) rapae crucivora</i>		
チョウ目	セセリチョウ科	イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata</i>		
チョウ目	セセリチョウ科	チャバネセセリ	<i>Pelopidas mathias oberthueri</i>		
チョウ目	タテハチョウ科	アカタテハ	<i>Vanessa indica</i>		
チョウ目	タテハチョウ科	キタテハ	<i>Polygonia c-aureum c-aureum</i>		
出現種数	2目6科8種				

データ：第3回環境省自然環境保全基礎調査(S59)、第4回環境省自然環境保全基礎調査（H1～3）動植物調査結果

平成16～20年に「西淀自然文化協会」が矢倉海岸の調査で昆虫の出現についても整理しています。

貴重種ではレッドリストの準絶滅危惧種が2種確認されています。（コオイムシ、ヤマトシジミ）

表-2.1.6 生物確認リスト（昆虫類-2）

目名	科名	種名	学名	河川名	大阪RDB	レッドリスト
				資料名		
				西淀自然文化協会調査	H12.3	H19.3
トンボ	トンボ	ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>			
		オオシオカラトンボ	<i>Orthemum triangulare</i>			
		シオカラトンボ	<i>Orthemum albistylum speciosum</i>			
		ショウジョウトンボ	<i>Crocothemis servilia</i>			
		チョウトンボ	<i>Rhyothemis fuliginosa</i>			
ヤマトシジミ	イトトンボ科	キンヤマトシジミ	<i>Anax parthenope</i>			
		イトトンボ科	<i>Coenagrionidae spp.</i>			
ハサミムシ	ハサミムシ科	コキアリ	<i>Periplaneta fuliginosa</i>			
		チャバネコキアリ	<i>Blattella germanica</i>			
カマキリ	カマキリ科	オオカマキリ	<i>Tenodera aridifolia</i>			
		カマキリ	<i>Cottus kazika</i>			
ハナハチ	コバチ科	ハナハチ	<i>Hierodula patellifera</i>			
		アオハナハチ	<i>Truljalia hibinonis</i>			
		エンスオバチ	<i>Teleogryllus emma</i>			
		カネツバチ	<i>Ornebius kanetataki</i>			
		カンク	<i>Oecanthus longicaudus</i>			
		ツツシバチ	<i>Velarifictorus mikado</i>			
		ハシロカバチ	<i>Loxoblemmus campestris</i>			
		ウスバコバチ	<i>Conocephalus chinensis</i>			
		キリキリス	<i>Gampsocleis buergeri</i>			
		クビキリス	<i>Euconocephalus varius</i>			
ハナハチ	コバチ科	ヘスジウツムシ	<i>Ducetia japonica</i>			
		ウツムシ	<i>Phaneroptera falcata</i>			
		ウツムシsp	<i>Phaneroptera falcata sp.</i>			
		イボハナハチ	<i>Trilophidia annulata</i>			
ハナハチ	コバチ科	オアハナハチ	<i>Atractomorpha lata</i>			
		ショウジョウハナハチ	<i>Acrida cinerea</i>			
		トヤマハナハチ	<i>Locusta migratoria</i>			
		マダラハナハチ	<i>Aiolopus tamulus</i>			
		ヒシハナハチ	<i>Tetrix japonicum</i>			

表-2.1.6 生物確認リスト（昆虫類-2）つづき

目名	科名	種名	学名	河川名	大阪RDB	レッドリスト		
				資料名				
				西淀自然文化協会調査	H12.3	H19.3		
カマキリ	セミ科	アツラセミ	<i>Graptosaltria nigrofuscata</i>					
		クサセミ	<i>Cryptotympana facialis</i>					
		ツツクセミ	<i>Meimuna opalifera</i>					
		ヒゲラシ	<i>Tanna japonensis japonensis</i>					
		アツキムシ	ハマアツキ	<i>Aphrophora maritima</i>			準絶滅危惧	
		コオイムシ	コオイムシ	<i>Appasus japonicus</i>				
		オシカメ	オシカメ	<i>Polytoxus armillatus</i>				
		ヘリカメムシ	ヘリカメムシ	<i>Riptortus clavatus</i>				
		キカメムシ	キカメムシ	<i>Eucorysses grandis</i>				
		カメムシ	ウカメムシ	<i>Alicimocoris japonensis</i>				
			シラカメムシ	<i>Eysarcoris ventralis</i>				
			チャバネカメムシ	-				
			メカメムシ	<i>Megacopta punctatissima</i>				
			ツバカメムシ	ツバカメムシ	<i>Acanthosoma denticaudum</i>			
		アミミカゲ	アミミカゲ科	アツラミカゲ	アツラミカゲ	<i>Aphididae sp.</i>		
ウツラミカゲ	ウツラミカゲ			<i>Aphis gossypii</i>				
ウツラミカゲ	ウツラミカゲ			<i>Chrysopa intima</i>				
ウツラミカゲ	ウツラミカゲ			<i>Rhomborhina unicolor</i>				
ウツラミカゲ	ウツラミカゲ			<i>Protactia britteris</i>				
ウツラミカゲ	ウツラミカゲ			<i>Protactia orientalis</i>				
ウツラミカゲ	ウツラミカゲ			<i>Blitopertha orientalis</i>				
ウツラミカゲ	ウツラミカゲ			<i>Eucetonia pilifera</i>				
ウツラミカゲ	ウツラミカゲ			<i>Apoderus iekelii</i>				
ウツラミカゲ	ウツラミカゲ			-				
ハナハチ	ハナハチ科	コバチ	コバチ	<i>Anoplophora malasiaca</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Batocera lineolata</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Gallerucida bifasciata</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Pyrrhalta humeralis</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Pyrrhalta maculicollis</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Chrysolina aurichalcea</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Illeis koebeli</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Harmonia axyridis</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Coccinella septempunctata</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Epilachna vigintioctopunctata</i>				
ハナハチ	ハナハチ科	コバチ	コバチ	<i>Menochilus sexmaculatus</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Propylea japonica</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Musca domestica</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Lucilia caesar</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Calliphora nigribarbis</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Promachus vesonius</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Trichomachus scutellaris</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Episyrphus balteatus</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Eristalis tenax</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Eupeodes frequens</i>				
ハナハチ	ハナハチ科	コバチ	コバチ	<i>Sphaerophoria philanthus</i>				
		コバチ	コバチ	-				
		コバチ	コバチ	<i>Graphium sarpedon</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Papilio protenor</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Byasa alcinous</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Papilio xuthus</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Papilio helenus</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Eurema hecabe</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Colias erate</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Pieris rapae</i>				
ハナハチ	ハナハチ科	コバチ	コバチ	<i>Parantica sita</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Libythea celtis</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Argyreus hyperbius</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Cynthia cardui</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Brenthis daphne</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Curetis acuta</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Lampides boeticus</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Everes argiades</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Lycaena phlaeas</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Corbicula japonica</i>		準絶滅危惧		
ハナハチ	ハナハチ科	コバチ	コバチ	<i>Isoteinon lamprospilus</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Hyphantria cunea</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Agrius convolvuli</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Cephonodes hylas</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Euproctis pseudoconspersa</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Synanthedon hector</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Monema flavescens</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Cystidia couaggaria</i>				
		コバチ	コバチ	-				
		コバチ	コバチ	<i>Camponotus japonicus</i>				
ハナハチ	ハナハチ科	コバチ	コバチ	<i>Oreumenes decoratus</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Polistes jadwigae</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Polistes rothneyi</i>				
		コバチ	コバチ	-				
		コバチ	コバチ	<i>Campsomeriella annulata</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Apis cerana</i>				
		コバチ	コバチ	<i>Xylocopa appendiculata</i>				
		コバチ	コバチ	-				
		コバチ	コバチ	-				
		コバチ	コバチ	-				
出現種数	目数			11				
	科数			50				
	種類数			112				

「西淀自然文化協会」データはホームページ及び提供資料(H20.6調査)による